

令和2年度 社会福祉法人宰府福祉会 事業計画

1、はじめに

当法人は障がい児者の「地域生活支援」の実現を目指して、制度改革等を踏まえ、法人の中期経営計画等に基づいて取り組んでいます。

障がい児者の現状としては、障がいの重度化や高齢化、親亡き後の生活などの対応が必要となっています。障がい児者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくことのできる様々な支援サービスの充実に努めているところです。

昨年、すみれ園を建て替え新築することができました。児童発達支援センターとしてより地域支援等を充実していくことにしています。今年度については、宰府園作業棟及び相談事業等の「地域生活支援センター」の着工にこぎつけたいと考えています。

その他、利用児者のサービスの向上や人材確保と育成、組織の能力の強化と活性化、地域連携と地域貢献事業の取り組みの推進、経営基盤の強化をより推進することとしています。

そのため、昨年の10月から、「BSC 事業計画」に改めて、法人の経営・予算編成方針、拠点事業計画、各サービス事業活動計画を策定から、職員目標管理シートの作成までの一貫した計画策定を行いました。目標設定研修や事業計画の理解を深める研修等を行うなど「目標の実現に向けての取り組み」をより一層強固にするためにと準備を進めてきました。そして、施設長とサービス管理責任者等の主要人事を行って、サービス向上と事業等の推進をより一層図ることとしました。

少子高齢化・人口減少等の社会変化は人材確保についての対策一つとっても、今までとは全然違ってきます。あらゆる面で180度の転換が必要となっていることから、過去にはとられず、新しい発想とその実現に向けての取り組みとなっています。

こういう状況認識において、今年度は、法人理念とその中期経営計画のに基づき、以下の基本方針で事業を実施いたします。

2、基本方針

1) サービスの質の向上

- ・利用者主体の個別支援計画の策定：利用者の自己選択・自己決定を尊重した個別支援計画の策定を行います。
- ・ニーズに基づいたサービスの提供：利用者の発達成長と自立や自己実現を目指した支援を行います。
- ・サービス管理責任者の役割の明確化：サビ管や児発管の役割を明確化してスーパービジョンの支援体制づくりを行います。

2) 組織強化と活性化

- ・現場重視の組織作り：現場は利用者サービスの最前線です。心と神経と血の通ったいきいきした活力ある現場を作るため、現場支援型組織をつくります。
- ・チームワークづくり：共通目標による組織体制作りと協力と連携のあるチーム作りを行います。

- ・人を活かす組織づくり：個性を生かす適材適所の配置とそれを支援する体制組織を作ります。
 - ・コミュニケーションの活性化：利用者・職員・業者・地域等とのコミュニケーション活動を活性化を図ります。
- 3) 人材の確保と育成
- ・求人・面接・採用・教育のプロセスの見直し：本部と施設長・サビ管等を中心としてプロセスの検討を行い、一貫した考え方の元に人材の確保と育成を図ります。
 - ・OJTの効果的な実施：業務に必要な知識・能力や経験の程度による段階的なOJTの実施を行い、業務の遂行を進めるようにします。
 - ・サービスや業務の改善と研究活動：職員一人ひとりの問題意識と改善意欲がこれからの新しい発想とその実現の向けての取り組みとなり、情報化社会の人材育成につながります。
- 4) 経営基盤の充実
- ・財務基盤の安定：事業と予算と評価を連動させて見える化し、財務、会計をわかり易くすることによって、職員一人ひとりが組織の全体の状況を把握して、目標の管理と達成に取り組み、限られた財源を確保していくようにします。
- 5) 地域連携と社会貢献活動の推進
- ・施設・事業所の運営や利用者支援を通して地域との連携・協調して多様な取り組みを行うことで社会貢献活動を進めます。また、施設近隣の自治会や民生委員、ボランティア等との連携、ネットワークを進め、事業の推進を行っていきます。
- 6) 宰府園作業棟増築と宰府福祉会地域生活支援センター等の整備
- ・法人内の利用者等の重度化や高齢化等に対応するために、各施設・事業所の機能等を見直すとともに、新しく地域生活支援センター等を整備し、法人全体で障がい児者の地域生活を支援するためのサービス提供体制を構築します。